

久留米総合病院 第6回地域連絡協議会議事録

【日時】 令和1年12月20日(金)16:00～17:00

【場所】 久留米総合病院 健康管理センター棟 5階 会議室

【議題】 令和1年度の取り組みについて

【出席者】 田中 二三郎 (久留米医師会会長)・窪田 俊哉 (久留米市健康福祉部長)
秋吉 弘章 (久留米市広域消防本部消防長)・大脇 久和 (青翠法律事務所 弁護士)
東 光敏 (地域住民代表)・遠坂 タエ子 (地域住民代表)

【欠席者】 八木 実 (久留米大学病院長)・内藤 美智子 (久留米市保健所長)
青沼 誠 (櫛原町自治会長)

【事務局】 中尾 眞一事務長
事務長補佐(総務企画) 藤丸 勇(書記) 鶴事務長補佐(経理) 久保事務長補佐(医事)

1. JCHO久留米総合病院 第6回地域連絡協議会について

①中尾事務長による趣旨説明

②委員各位へ、今回の会議開催について当院のホームページへ掲載する旨承諾を得る。
全員より了承される。

2. 院長挨拶

本日は、師走の御忙しい中ご出席いただきまして有難うございました。
本日は、本年度の中間報告及び審議事項を含め委員の皆様の忌憚なきご意見をお聞かせ頂き、今後の病院運営に役立てさせていただきたいと思っております。

3. 委員紹介について

今年4月1日付けで委員の異動がありましたのでご紹介いたします。
久留米市広域消防本部消防長 井上 秀敏様から秋吉 弘章に交代されました。一言ご挨拶願います。

4月より久留米市広域消防本部消防長を拝命いたしました秋吉 弘章でございます。
日頃より久留米総合病院さまには、救急搬送応受他ご協力いただきありがとうございます。今後ともよろしく願います。

4. 令和元年度(平成31年度)の取り組みについて

①久留米総合病院の基本情報を院長より資料を基に説明。

開設主体は独立行政法人地域医療機能推進機構で、医療機関名は独立行政法人地域医療機能推進機構久留米総合病院です。
許可病床数175床、急性期病床で、稼働病床は154床、急性期病床であります。
病棟は3. 4. 5階の3病棟で、3階病棟は消化器内科、一般外科、泌尿器科、整形外科、4階病棟は女性病棟で乳腺外科、産婦人科、5階病棟は一般内科、循環器内科、整形外科、麻酔科、地域包括ケア病床(8床)で構成されております。診療科目は21診療科があります。
職員数は令和1年12月1日現在で常勤職員325名、非常勤職員59. 6名 合計384. 6名です。

②市民のための健康教室開催状況を院長より資料を基に説明。

市民のための健康教室で、毎月行っています。外来受診患者様の待ち時間を利用して教室に参加して頂く為に行っています。近隣の小学校PTAの方々も参加して頂いております。

③地域連携講演会開催状況を院長より資料を基に説明。

地域連携後援会は、医療従事者を対象に行っております。
本年度も8月を除き毎月6時30分より実施しており、来年も引き続き実施する予定であります。

④強制採尿・強制採血(久留米警察署からの依頼)状況を院長より資料を基に説明。
性暴力被害者支援事業協力医療機関(福岡県)

4月～11月現在、強制採尿実施件数4件、強制採血1件、性暴力被害者支援事業3件ありました。

⑤救急搬送応需件数を院長より資料を基に説明。

久留米総合病院 第6回地域連絡協議会議事録

救急搬送応需件数につきましては、10月現在で455件、目標は1,000件です。
当院は一次・二次救急病院で輪番制で対応しております。救急体制については、来年2月より1名、4月より1名、久留米大学病院より医師の派遣が決まっておりますので、救急応需体制の更なる充実を図っていきたい。

⑥患者数等の状況について院長より資料を基に説明。

10月現在、病床利用率80%前後、平均在院日数11.9日、外来患者数360人前後、紹介率70%前後、逆紹介率60%弱で推移しております。救急搬送応需件数445件、手術件数1,200件(年間2,000件前後)200床未満の病院としては非常に多い件数です。

健診センターは、年間30,000件、現在20,000件ほどで推移し、11月のピーク時も含めると30,000件を超える見込みです。

老健は、入所病床数97床で利用率90%前後、通所者数定員45人で利用率92%前後で推移しております。5月より在宅強化型を取得し在宅復帰率を50%維持する必要があるため、一丸となって取り組んだ結果10月現在、73%を維持しております。

経常収支は、10月末で収入309,405万円、費用300,396万円、経常収支9,009万円の黒字で推移しています。

⑦祝日開日の患者利用状況について院長より資料を基に説明。

今年のゴールデンウィーク開院日は3日間で、4月30日161人、5月2日85人、5月6日233人あり、問題点として出勤した職員の代休取得がかなり難しかった経緯があり、年末年始の9連休期間は開院しないことといたします。

⑧JCHO病院における当院の経営評価について院長より資料を基に説明。

平成30年度当病院の評価がA評価でありました。JCHO57全体評価の内訳はAA 3病院、A 19病院、A' 6病院、B 15病院、C+ 6病院、C 4病院、D 6病院であります。

基準では、2期連続で経常収支率100%以上、賞与支給月数4.45月(30年度の支給上限月数)、賞与支給月数+年度末賞与支給月数が黒字病院の中央値以上を満たしております。

⑨当院受入の研修事業について院長より資料を基に説明。

久留米大学病院より研修医3名、6年生クリニカルクラークシップ18名、3年生地域医療体験実習16名、1～2年生地域医療体験実習14名、看護学生138名他受入れております。

⑩地域医療構想について院長より資料を基に説明。

地域医療構想(公的入用機関等2025プラン)への対応といたしましては、平成29年9月に病床機能急性期許可病床175床、稼働病床154床(内8床を地域包括病床)で県へ提出している。久留米市地区の在宅医療の後方支援病院として、「久留米地域包括ケアシステム構築拠点病院(Kics)」における中核病院に位置付けられている。

これを踏まえ、包括ケア病棟を8床増床し16床で要望しています。

⑪第二期中期計画(診療事業に対する指標)に対する対応状況について院長より資料を基に説明。

救急応需率85%以上 当院10月末94.9%、地域包括ケア病棟在宅復帰率85%以上 当院10月末96.0%
民間向け健康教室1,000回以上 当院10月末22回(年間一病院18回平均)、介護老人保健施設在宅復帰率55%以上 当院10月末73.5%、満足度調査(病院)87%以上 当院10月末88.1%、満足度調査(老健)92%以上 当院10月末92.9%、特定行為研修者 当院10月末1名、地域医療介護従事者向け研修 当院10月末29回実施。

経常収支率100%以上であること。

5. 委員より質問

質問: 市民のための健康教室の参加人数は何名程か。

回答: 平均で10名から20名である。本来、患者さまの受診・検査の待ち時間に参加頂ける様に主催している。

質問: 地震・豪雨災害等の災害発生時に関連し、自家発電機は何処に設置しているのか。

回答: 診療棟屋上に設置している。医療情報のサーバーは6階に設置している。

委員より

市役所は5階に設置されている。3階が避難所となっている。

委員より質問

質問: 働き方改革を踏まえた連休の対応は。

回答: ゴールデンウィークは診療を行ったが、代休の取得で8週以内に取得しなければならない規程となっているので各職場において大変であった。

医師については、あと4年の猶予がありますが、それ以外の職員については、就業規則の周知も含め問題なく管理が出来ている。医師については、年に2回就業規則について説明会を実施し働き方改革の推進の周知を図っている。超過勤務60時間を超えた医師に関しては、面談を実施し削減の指導を行っている。また、医師当直に対し、監督署より当直勤務として認められておらず、夜間の時間帯を超過勤務としてカウントしていることも超過勤務の増加の要因となっている。

久留米総合病院 第6回地域連絡協議会議事録

審議事項 田中院長

第二期中期目標・年度計画の数値目標に関する中核病院又は補完病院の決定について

地域医療構想について、当院の機能としては、急性期病院(地域で中核的な役割を主に期待される「中核病院群」)として役割を果たしていきたいと考えており、救急搬送応需率(毎年度85%以上)で厚生労働省の評価を受けようと考えておりますが、委員の皆様へ審議願います。

委員より

先ほどからご説明いただいた病院の状況を踏まえ、また職員のモチベーション維持の観点からも急性期病院(地域で中核的な役割を主に期待される「中核病院群」)として進めていただきたい。

委員より

救急搬送時間が平均39分に対し26分と短く、是非、急性期病院(地域で中核的な役割を主に期待される「中核病院群」)として進めていただきたい。

委員より

久留米市においても政策的にも、是非、急性期病院(地域で中核的な役割を主に期待される「中核病院群」)として進めていただきたい。

田中院長

皆様のご意見を受けて、急性期病院(地域で中核的な役割を主に期待される「中核病院群」)として報告させていただきます。

委員より質問

質問:

先日、海外旅行において病院に掛ることがあり、会話に困った経験があった。病院での外国人旅行者への対応はどうなっているのか。

回答:

当院は、福岡県より外国人旅行者対応拠点病院として選定されており、通訳システムM-Talk等を導入し、受入準備を進めている。

委員より

地域医療構想においては、民間の病院の整理が終わった段階で不足している病床に対し公的病院の検討が始まることとされており、時間を要していることをご理解いただきたい。

田中院長

その経緯については、重々承知しております。将来的に包括病床の許可をいただければ、現在、休床している21床を返還しても良いと考えている。

委員より

働き方改革の観点からしても、経営面においても病床の考え方は重要な問題として取り組んでいただきたい。

田中院長

本日は、貴重なご意見を頂きありがとうございました。いただいたご意見を今後の病院運営に生かしていきたいと思っております。また、来年も皆様のご意見を伺いたくご指導のほどよろしくお願いいたします。